

ステップアップ訓練 個別研修(地震・津波)

大竹市
危機管理課



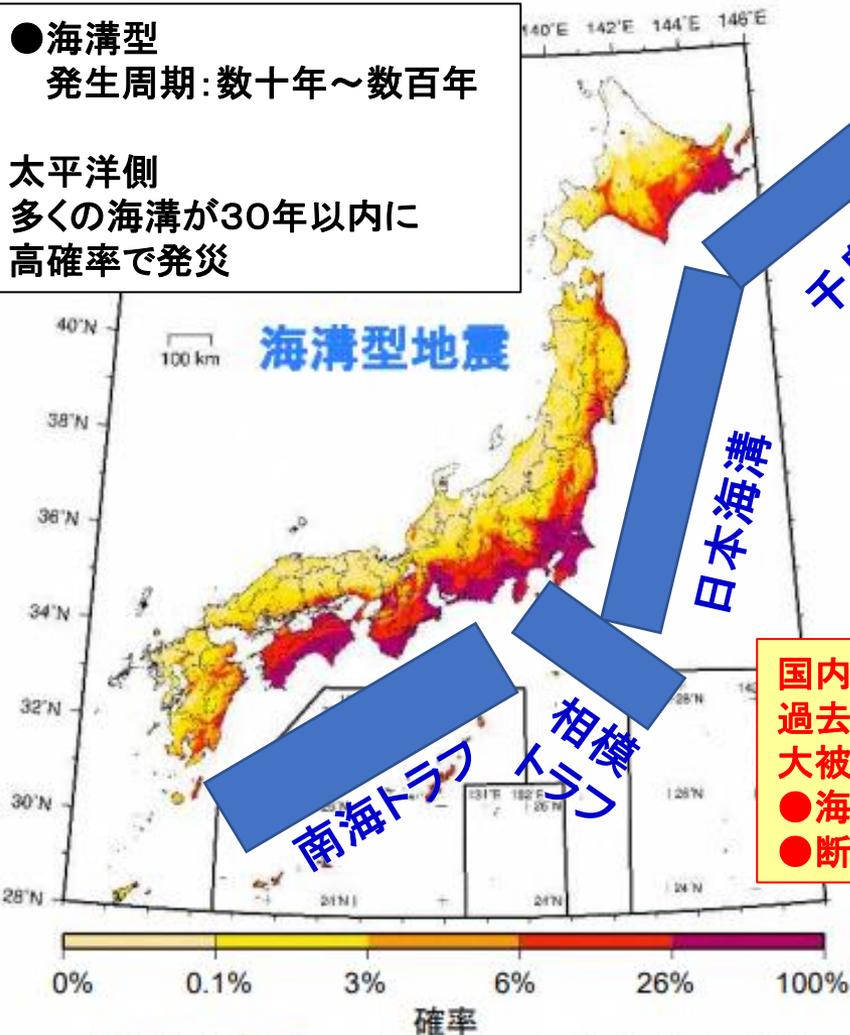
公開先
大竹市HP
防災研修資料

1 国内に発生する地震

2020年から30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率

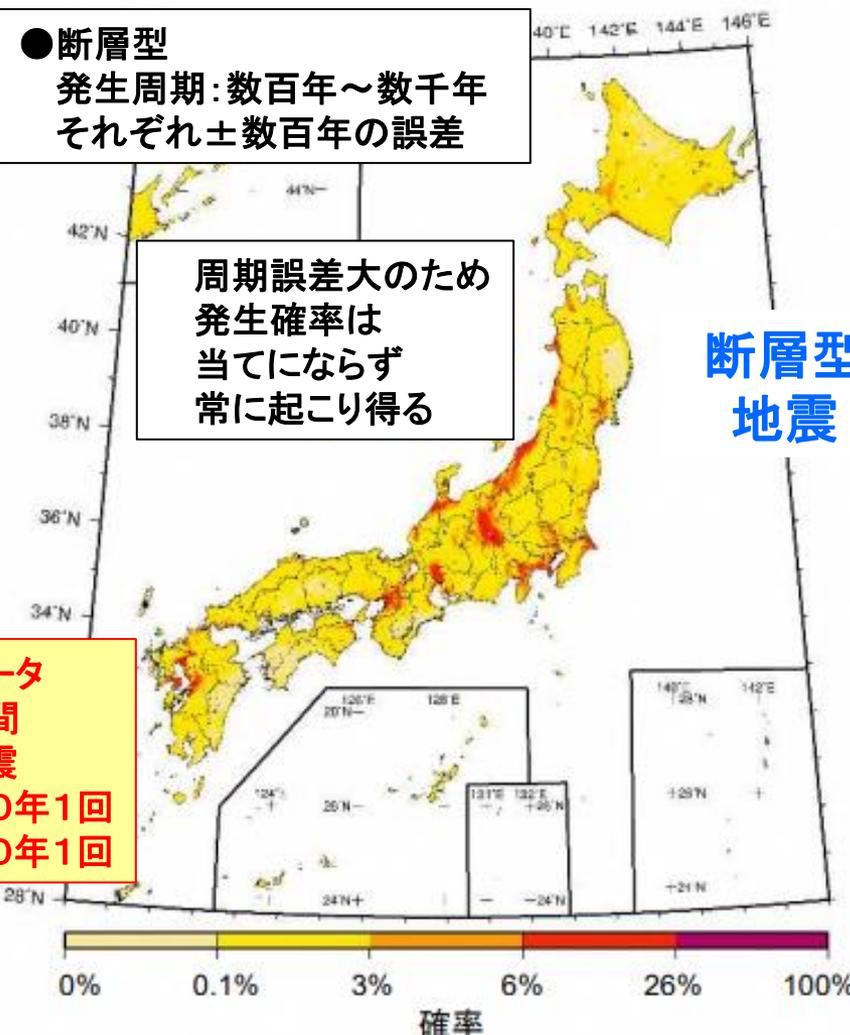
●海溝型
発生周期:数十年～数百年

太平洋側
多くの海溝が30年以内に
高確率で発災



●断層型
発生周期:数百年～数千年
それぞれ±数百年の誤差

周期誤差大のため
発生確率は
当てにならず
常に起こり得る

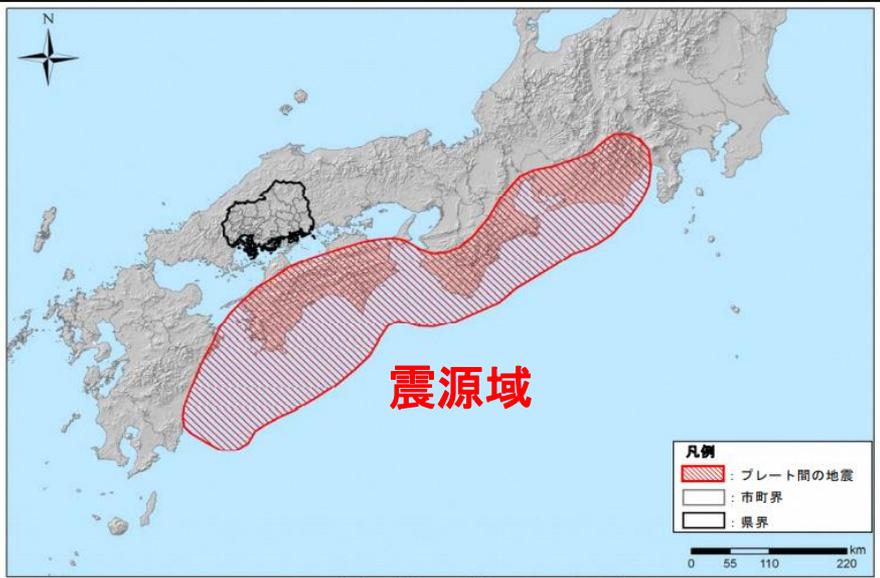


国内統計データ
過去200年間
大被害の地震
●海溝型:20年1回
●断層型:10年1回

海溝型地震による揺れに見舞われる確率

活断層などの浅い地震による揺れに見舞われる確率

2 南海トラフ巨大地震



図I.4.1-1 想定地震位置図（南海トラフ巨大地震）²⁷

広島県は震源域の範囲外

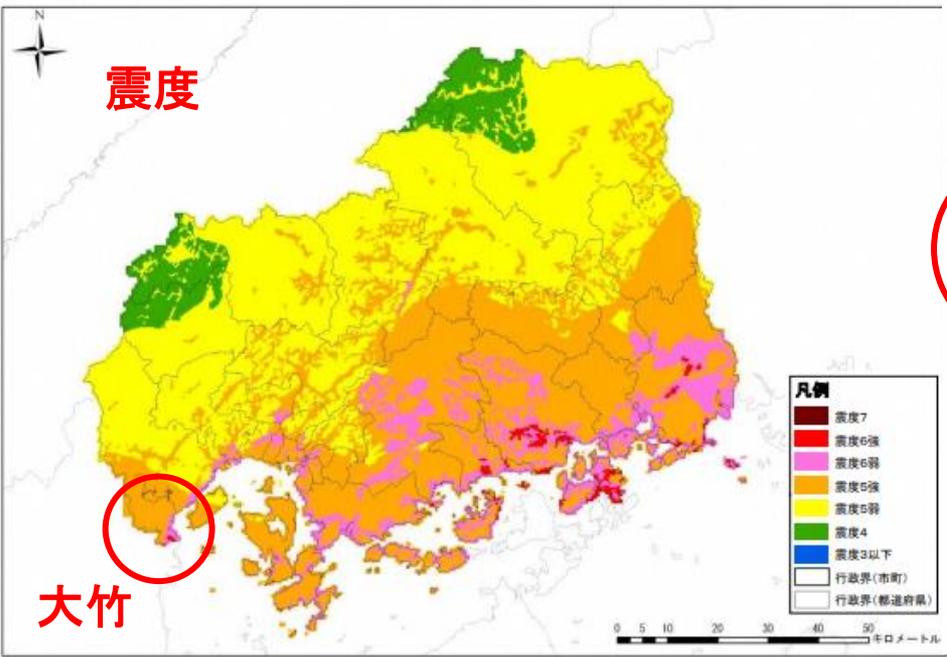
広島県 震度：最大7

津波：最大3.5m

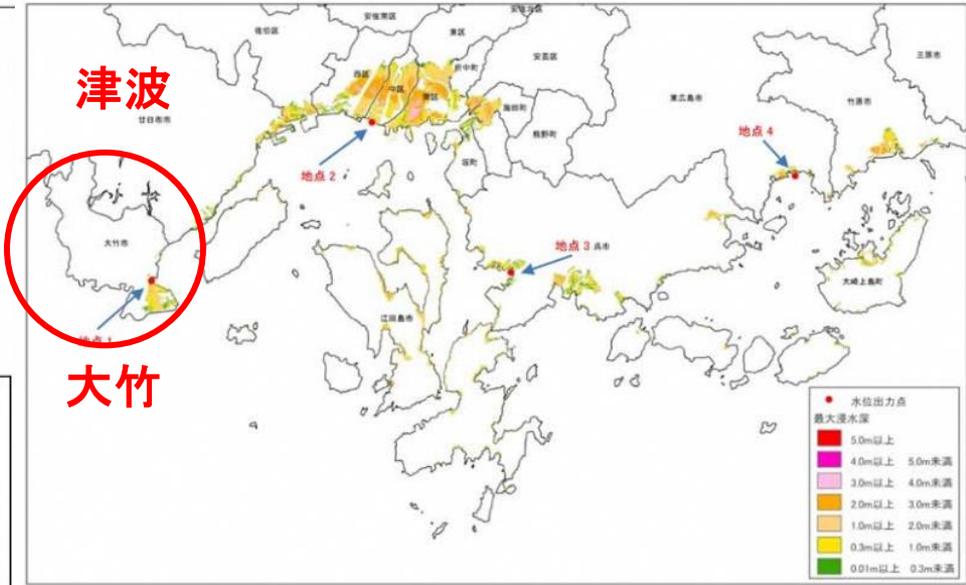
大竹市 震度：最大6強

津波 第1波 26分後
最大高3.4m

約3時間後



南海トラフ巨大地震（重ね合わせ）

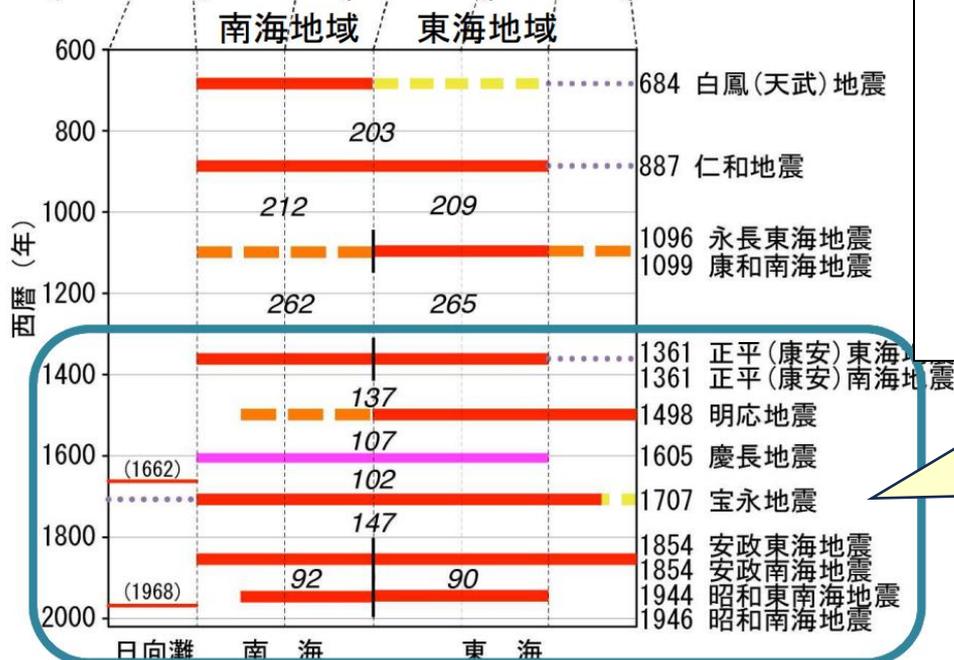
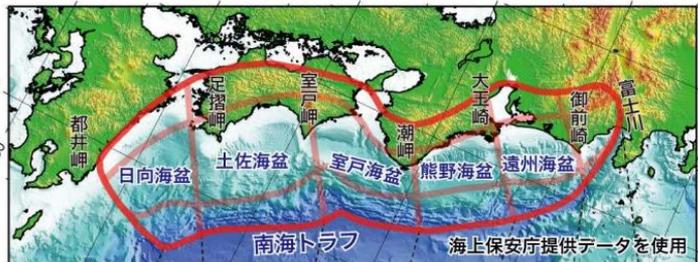


図III.1.1-11(1) 水位時系列変化図（西部）

出典：広島県地震被害想定報告書（H25,10）

過去の記録

海溝型地震 南海トラフ巨大地震の特徴



- 過去の記録から発生時期の推定が可能
 - 複数の震源域の同時発災で巨大地震になる可能性
 - 広範囲に大きな地震動と大津波をもたらし、極めて大きな被害をもたらす恐れがある
- ⇒ 広範囲のインフラ破壊
⇒ 緊急輸送物資の遅れ
⇒ 復興の遅延
⇒ 国家経済への打撃

90年～150年間隔で発生
2024年現在
前回(1946年)から78年経過
30年以内の発生確率70～80%

- 確実な震源域
 - - 確実視されている震源域
 - - 可能性のある震源域
 - 説がある震源域
 - 津波地震の可能性が高い地震
 - 日向灘のプレート間地震(M7クラス)
- 南海地域と東海地域で時間をおいて発生



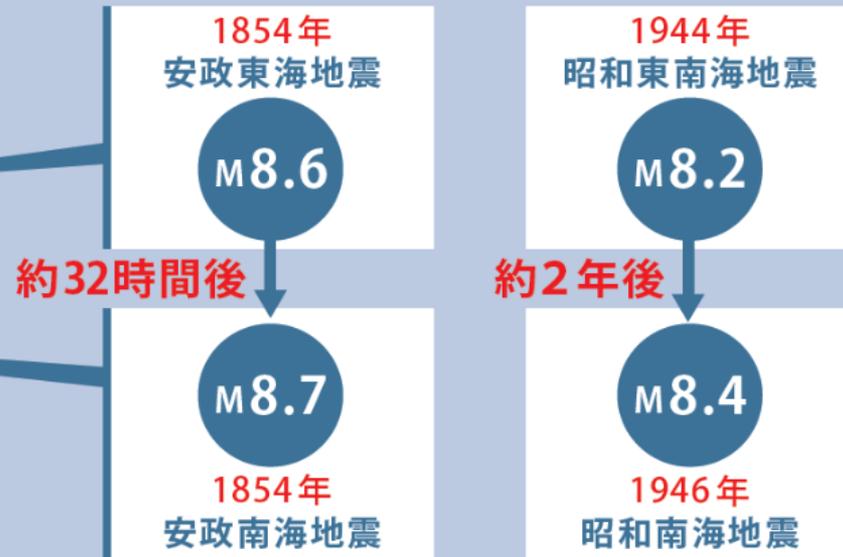
東西に分けて2回発生



地震は一度では終わらないかも

～時間差で起きる場合も～

〔過去事例〕



※Mはモーメントマグニチュード

※西側で先に大規模地震が発生する可能性もあります。



過去、東西は時間差で発生
間隔と順番にバラつき

南海トラフ地震臨時情報

南海トラフ地震臨時情報とは

異常現象等で発生の可能性が高まった場合 ⇒ 気象庁が発表するもの

監視区域内(黄色内)で
気象庁マグニチュード
6.8以上の地震発生

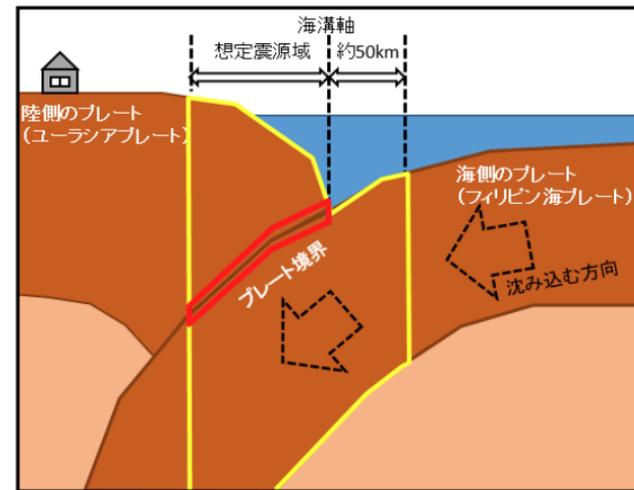
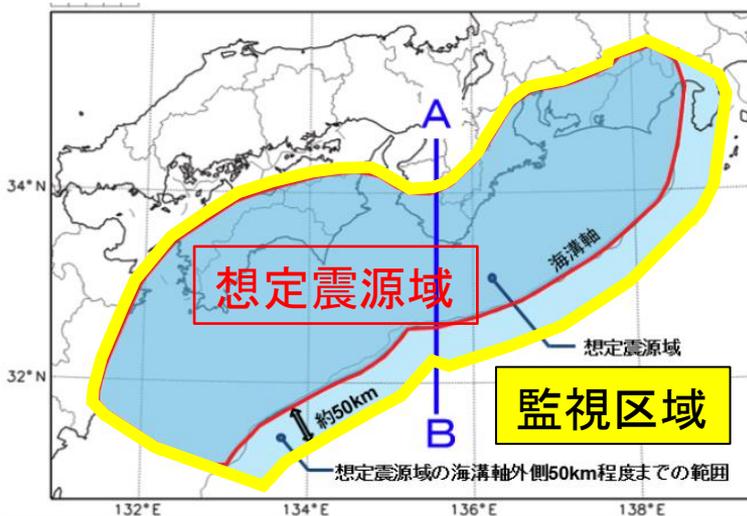
又は

想定震源域内(赤色内)で通常
と異なるゆっくりすべり発生



5～30分後

南海トラフ地震臨時情報(調査中)発表



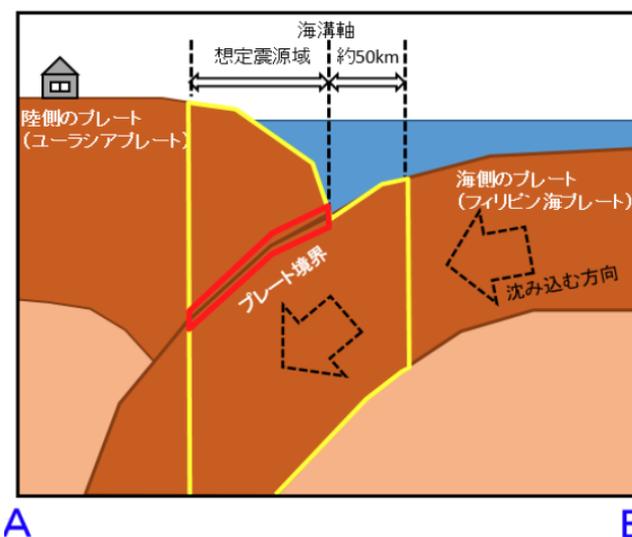
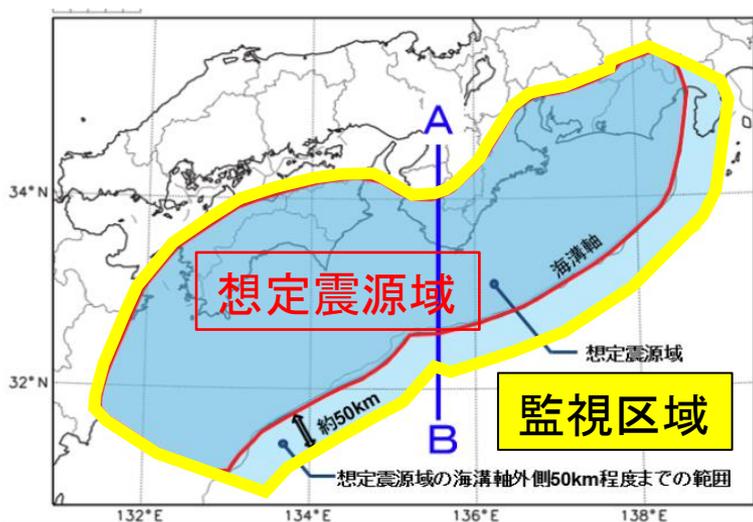
A

B



南海トラフ地震臨時情報の区分

<p>調査中</p>	<p>観測された異常現象が南海トラフ巨大地震と関連するか調査を開始した場合</p>
<p>巨大地震警戒</p>	<p>調査の結果、想定震源域内(下図赤枠内)で、 モーメントマグニチュード8.0以上の地震発生と評価された場合</p>
<p>巨大地震注意</p>	<p>調査の結果 監視区域内(下図黄線内)で、 モーメントマグニチュード7.0以上の地震発生と評価された場合 想定震源域内(下図赤枠内)で、 ゆっくりすべりが発生と評価された場合</p>
<p>調査終了</p>	<p>上記のいずれにも当てはまらないと評価された場合</p>



南海トラフ地震臨時情報

地震発生

対応の流れ

5分～30分後

調査中

約2時間後

巨大地震警戒

巨大地震注意

調査終了

呼びかけを行う

呼びかけを行う

通常的生活
ただし、大規模地震の可能性がなくなったわけではないことに留意

地震の備えの再確認
+地震発生後、すぐに避難するための準備(※1)

地震の備えの再確認
+地震発生後、すぐに避難するための準備(※1)

津波からの避難が間に合わない住民は事前避難(※2)

1週間

警戒措置解除⇒注意措置へ

呼びかけ終了

地震の備えの再確認
+地震発生後、すぐに避難するための準備(※1)

通常的生活
ただし、大規模地震の可能性がなくなったわけではないことに留意

2週間

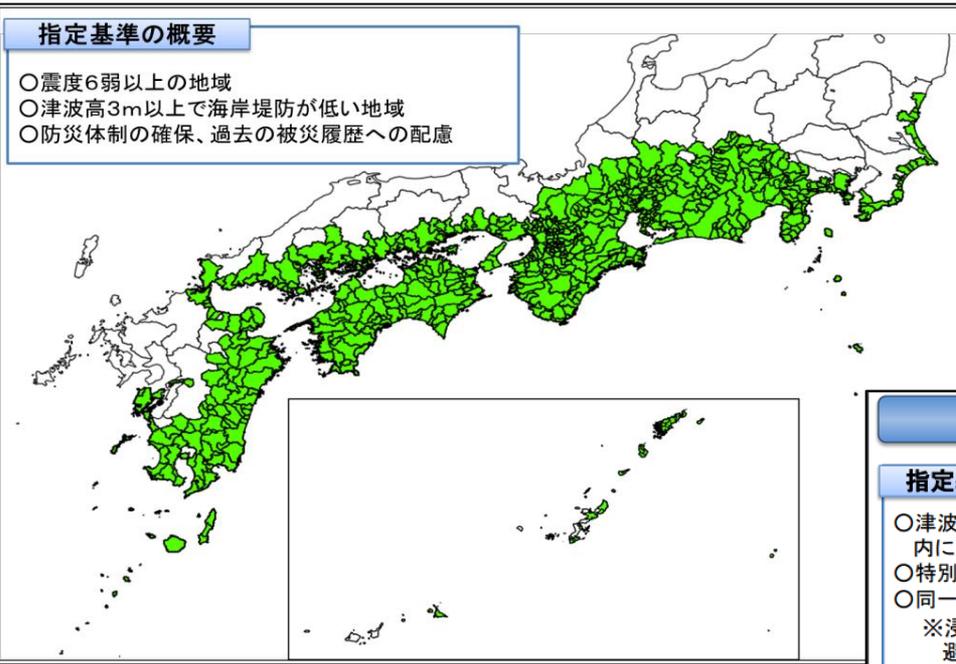
呼びかけ終了

通常的生活
ただし、大規模地震の可能性がなくなったわけではないことに留意

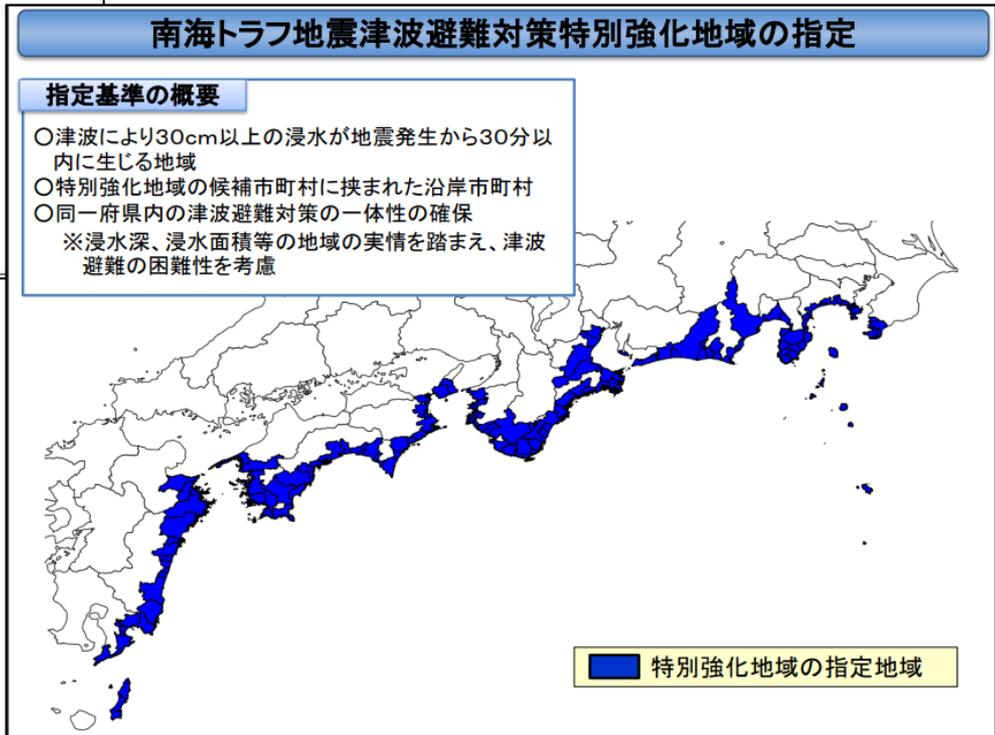


対象エリア

※1 呼びかけ対象エリア (南海トラフ地震防災対策推進地域)

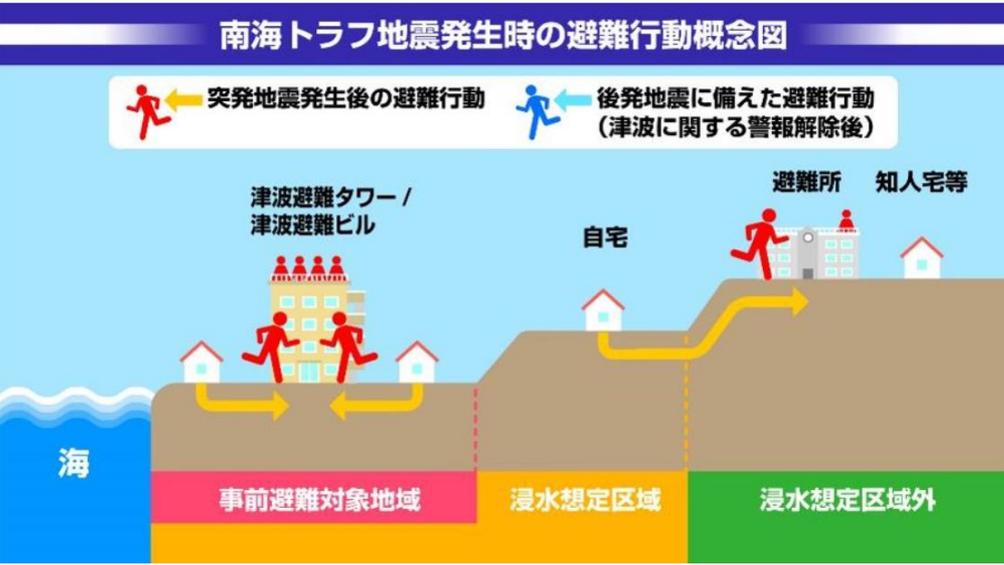


※2 事前避難対象エリア (南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域)



突発的に地震が発生した場合（津波警報発表時）

津波避難の概念

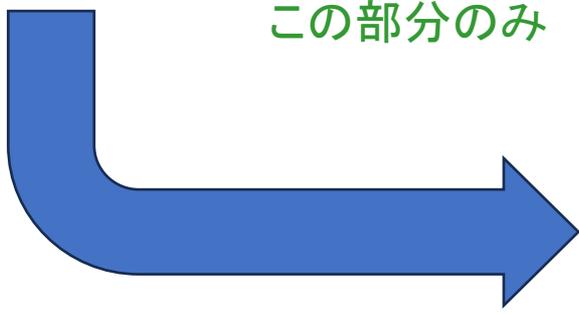


太平洋沿岸
のみに設定

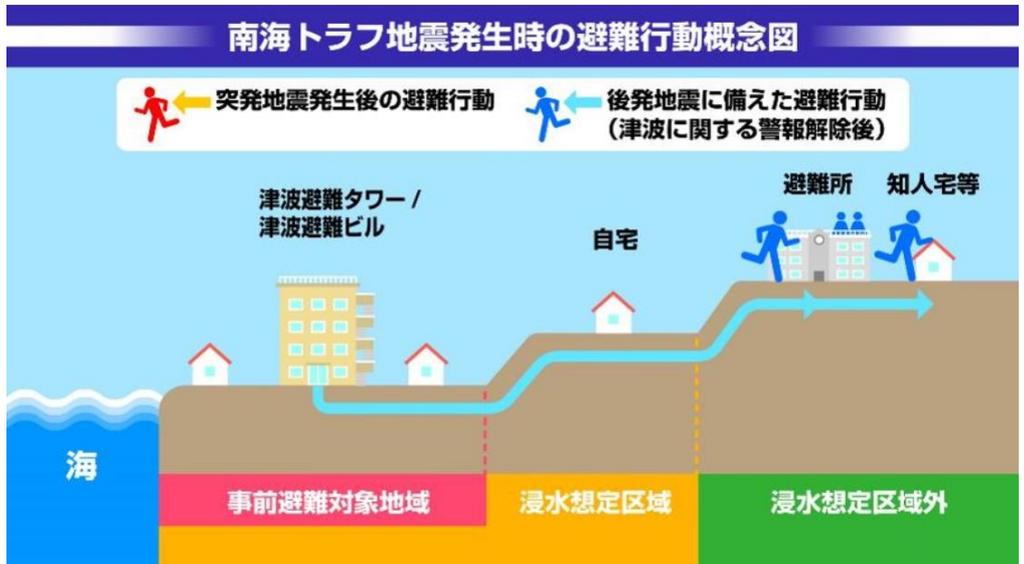
瀬戸内海沿岸（大竹市）
この部分のみ

※2 事前避難対象エリア
（南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域）

※1 呼びかけ対象エリア
（南海トラフ地震防災対策推進地域）



津波警報が津波注意報
に切り替わった後



地震が発生したらすぐに避難するための備えとは？

地震の発生に備えて、日頃から、お住まいの地域の自治体で作成されているハザードマップの確認や、避難場所・避難経路、家族との連絡手段などを決めておきましょう。

また、南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒・巨大地震注意)が発表された際は、必要に応じて事前避難を行うとともに、すぐに逃げられる服装での就寝や、携帯ラジオ・携帯電話の予備バッテリーの充電を確認するなど以下の**赤色の■**などの備えは、**より意識して行いましょう。**

迅速な避難体制・準備

- 地域のハザードマップでどのような危険があるかを確認する
- 安全な避難場所・避難経路等を確認する
- 家族との連絡手段を決めておく
- 非常持出品（食料、水、常備薬、懐中電灯、携帯ラジオ等）を常時携帯する（就寝時でもすぐ持ち出せるように準備する）
- すぐに逃げられる服装で就寝する
- 屋内の安全な場所で生活する（がけ近くの部屋から離れるなど）
- 避難情報を確実に取得できるようにする（携帯電話の音量を通常時より大きくするなど）



室内の対策

- 窓ガラスの飛散防止対策をする
- タンス類・本棚の転倒防止対策をする
- 高い場所に物を置かない

出火や延焼の防止対策

- 漏電遮断機や感震ブレーカー等を設置する
- 火災警報器の電池切れがないことを確認する

地震発生後の避難生活の備え

- 水や食料の備蓄を多めに確保する
- 簡易トイレを用意する
- 携帯ラジオや携帯電話の予備バッテリー等を準備する



地震への備えの再確認や取るべき行動のチェックリスト

迅速な避難体制・準備

- 地域のハザードマップで地震、津波、土砂災害等どのような危険が想定されるかを確認する
- 安全な避難場所・避難経路等を確認する
- 家族との連絡手段を決めておく
- 非常持出品（食料、水、常備薬、懐中電灯、携帯ラジオ等）を、常時携帯する（就寝時でもすぐに持ち出せるように準備する）
- すぐに逃げられる服装で就寝する
- 出入口に避難の支障となる物を置かない
- 耐震性が低い建物や、土砂崩れや津波浸水のおそれがあるところには、できるだけ近づかない
- 倒壊危険性のあるブロック塀等には近づかない
- 屋内のできるだけ安全な場所、安全な部屋で生活する
- がけ崩れのおそれがある地域では、がけに近い居室で寝るのを控える
- 津波、土砂災害等のリスクが高いところでは、不安がある場合に避難できる安全な知人宅、親類宅等を検討する
- 避難情報を確実に取得できるようにする（携帯電話の音量を通常時より大きくするなど）

家具類の転倒及びガラス飛散防止対策など室内の対策

- 窓ガラスの飛散防止対策をする
- タンス類・本棚の転倒防止対策をする
- キャスター付きの収納、ベッド等を固定する
- テーブル・椅子のすべり防止対策をする
- テレビをテレビ台に固定し、テレビ台のすべり防止対策をする
- 食器棚の転倒・ガラス扉の飛散・引き出しの飛びだし防止対策をする
- 冷蔵庫の転倒防止対策をする
- 電子レンジの落下・すべり防止対策をする
- ベッド頭上に物を置かない

- 高い場所に物を置かない

出火や延焼の防止対策

- 火災警報器の電池切れがないことを確認する
- 不要な電気機器等の使用を控え、コンセントのプラグを抜く
- コンロやストーブの周囲に燃えやすい物を置かない
- 消火器を取り出しやすい場所に置く
- プロパンガスのボンベを転倒しないよう固定する
- 漏電遮断機や感震ブレーカー等を設置する

地震発生後の避難生活の備え

- 水や食料の備蓄を多めに確保する
- 簡易トイレを用意する
- 携帯ラジオや携帯電話の予備バッテリー等を準備する

※黒色の□は、日頃から行うことが重要な備えです。

赤色の□は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒・巨大地震注意）が発表された際に、地震が起きたらすぐに避難できるように行うことが重要な備えです。

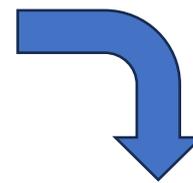


半割れによって、東側(紀伊半島以東)に地震発生

西側(紀伊半島以西)では地震発生に備える

モーメントM8以上⇒巨大地震警戒

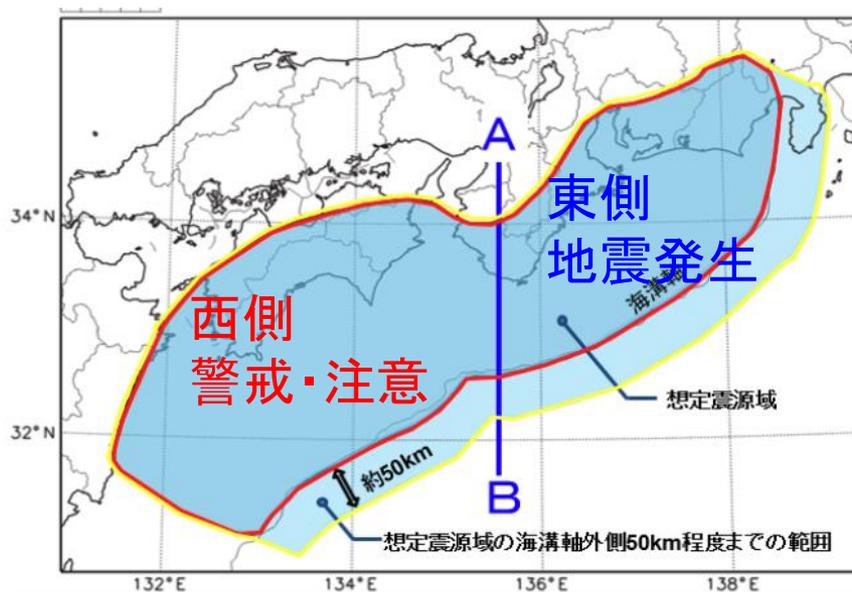
モーメントM7以上⇒巨大地震注意



群集心理で買いだめ加速
防災用品・食料品は物流が麻痺
⇒品薄・購入困難へ



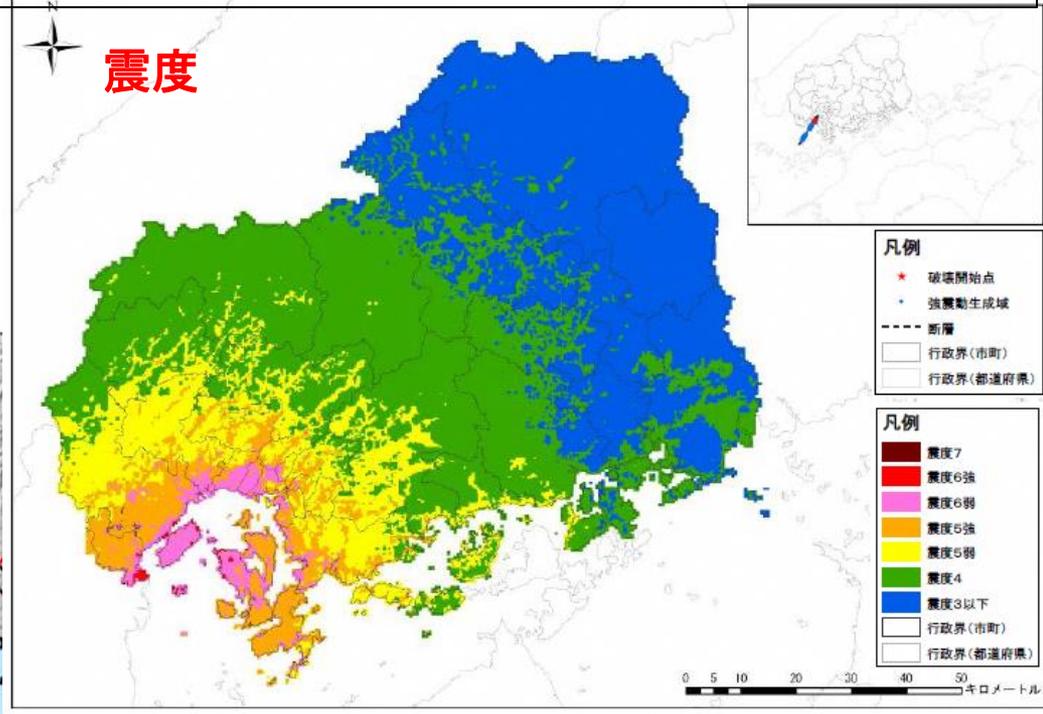
西側に地震が来る前から
備蓄品の消耗が発生



3 安芸灘断層群・
五日市-岩国断層帯地震
(断層型)

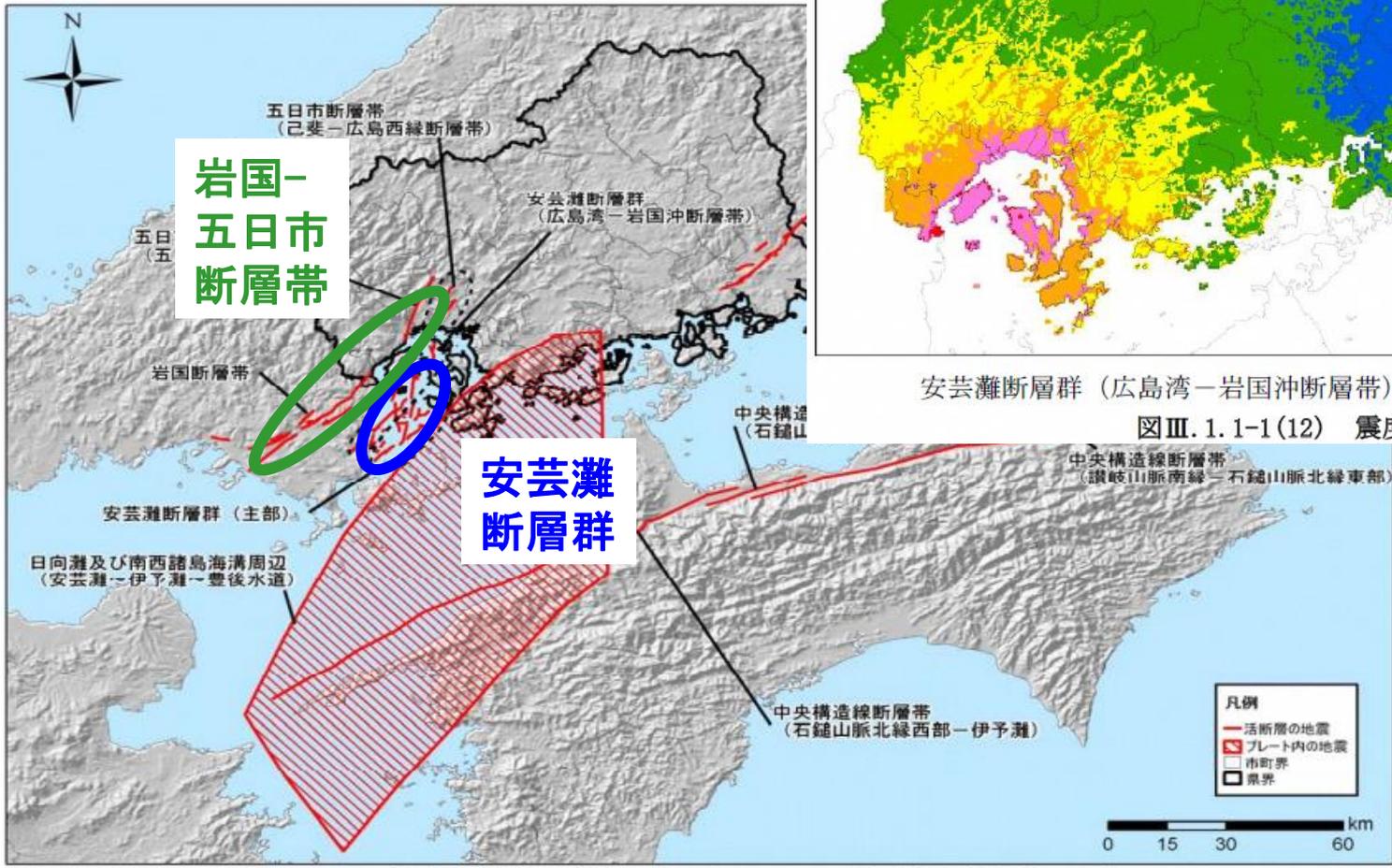
3 安芸灘断層群・五日市-岩国断層帯地震（断層型）16

岩国・五日市断層発災時
 震度 広島県:最大6強
 震度 大竹市:6強～5強



安芸灘断層群（広島湾－岩国沖断層帯）の地震（北から破壊）

図Ⅲ.1.1-1(12) 震度分布



図Ⅰ.4.1-2 想定地震位置図（既に明らかとなっている断層等を震源とする地震）

岩国-五日市断層帯

[己斐断層区間]

地震の規模 : M7.1程度
 地震発生確率 : 不明 (地震発生確率値の留意点)
 地震後経過率 : 不明 (地震後経過率とは?)
 平均活動間隔 : 不明
 最新活動時期 : 約23000年前以前

[五日市断層区間]

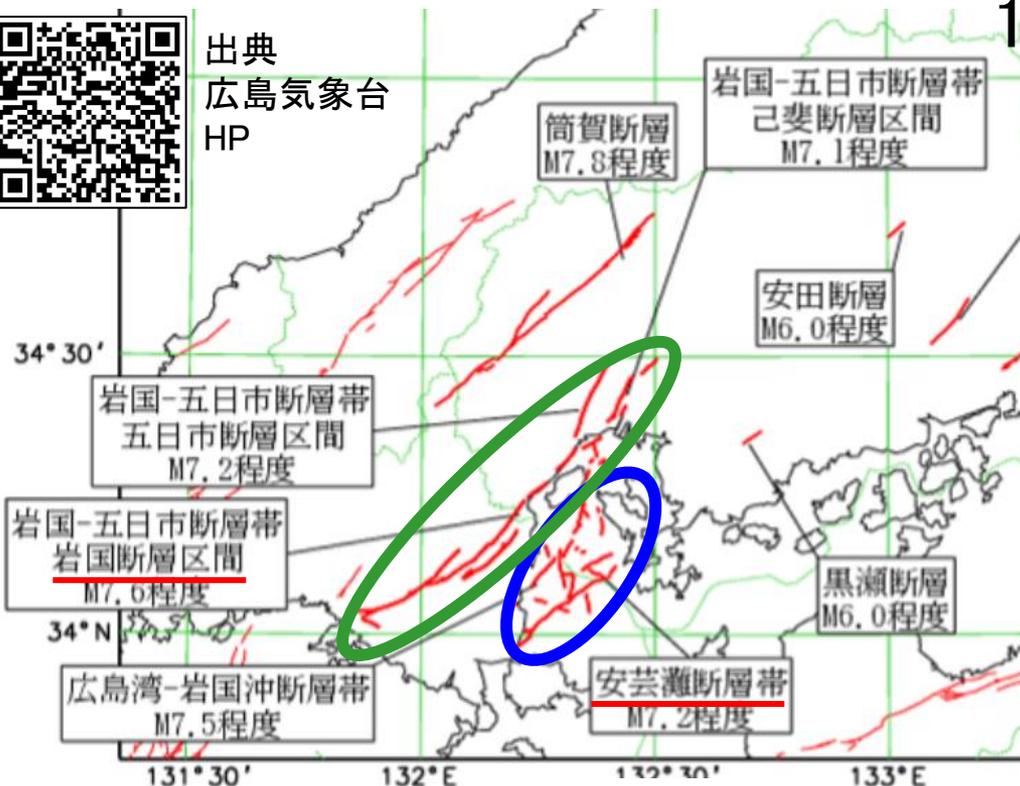
地震の規模 : M7.2程度
 地震発生確率 : 不明 (地震発生確率値の留意点)
 地震後経過率 : 不明 (地震後経過率とは?)
 平均活動間隔 : 不明
 最新活動時期 : 7世紀以後、12世紀以前

[岩国断層区間]

地震の規模 : M7.6程度
地震発生確率 : 今後30年以内に、0.03%~2%
地震後経過率 : 0.6~1.2 (地震後経過率とは?)
 平均活動間隔 : 約9000年~18000年
 最新活動時期 : 約10000年~11000年前



出典
 広島气象台
 HP



安芸灘断層群

<<安芸灘断層帯>>

地震の規模 : M7.2程度
 地震発生確率 : 今後30年以内に、0.1%~1.0%
地震後経過率 : 0.6~2.4 (地震後経過率とは?)
 平均活動間隔 : 2300年~6400年程度
 最新活動時期 : 約5600年前以後、3600年前以前

<<広島湾-岩国沖断層帯>>

地震の規模 : M7.5程度
 地震発生確率 : 不明 (地震発生確率値の留意点)
 地震後経過率 : 不明 (地震後経過率とは?)
 平均活動間隔 : 不明
 最新活動時期 : 不明

地震後経過率とは...

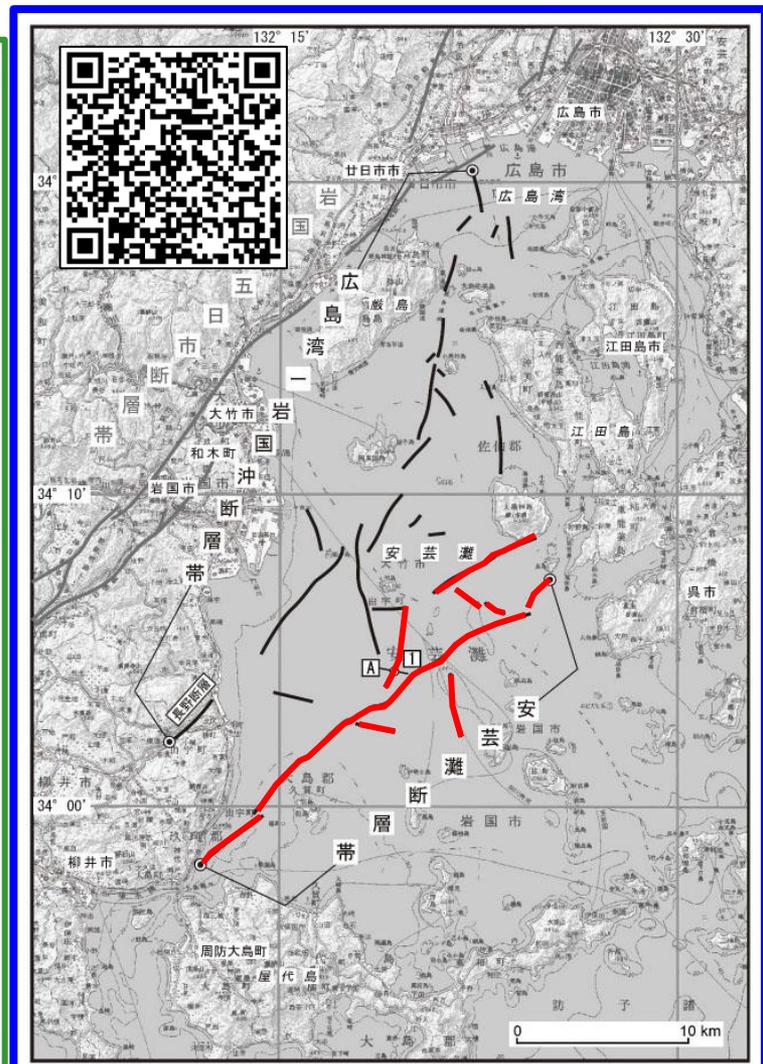
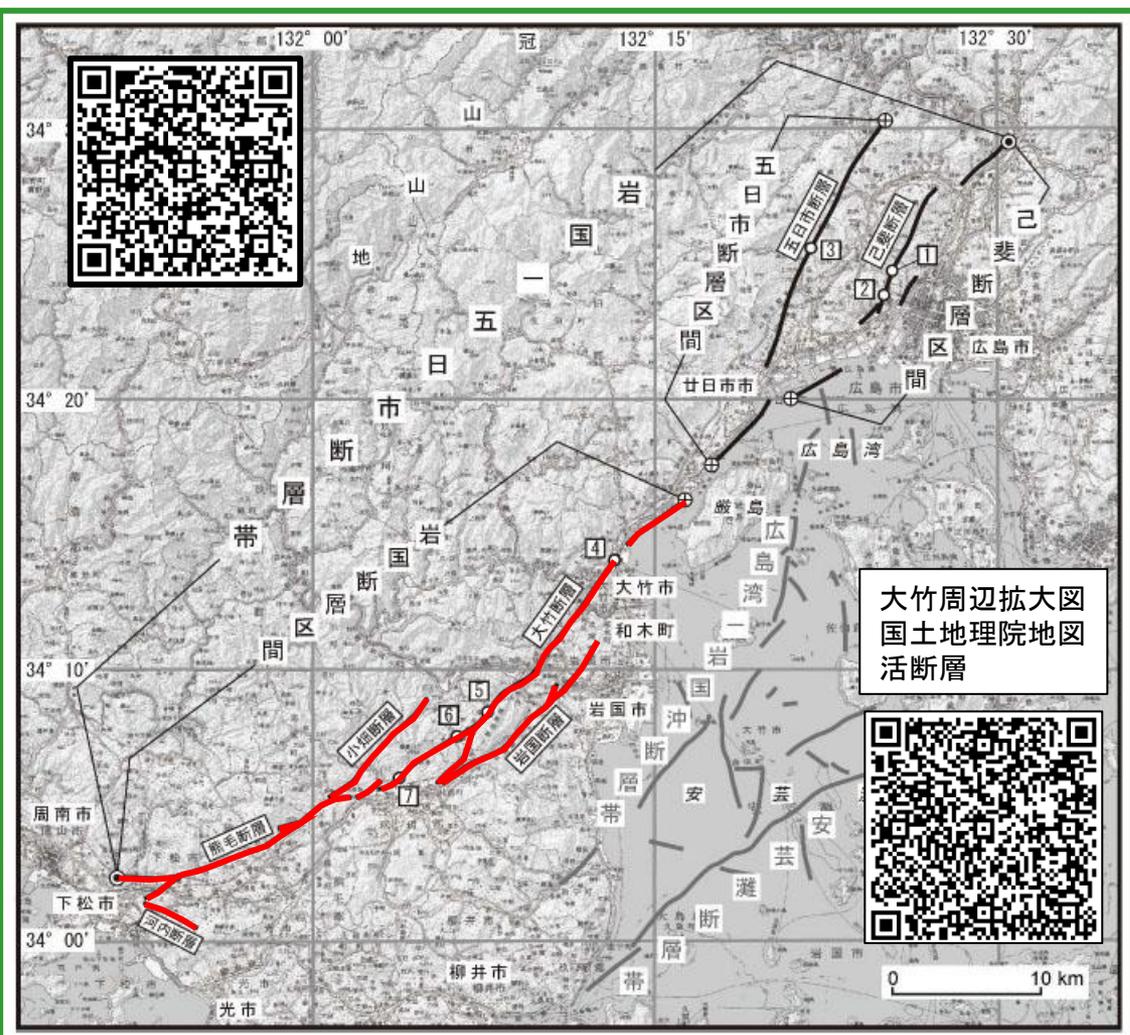
最新活動(地震発生)時期から評価時点までの経過時間を、平均活動間隔で割った値です。最新の地震発生時期から評価時点までの経過時間が、平均活動間隔に達すると1.0となります。



大竹市周辺の断層

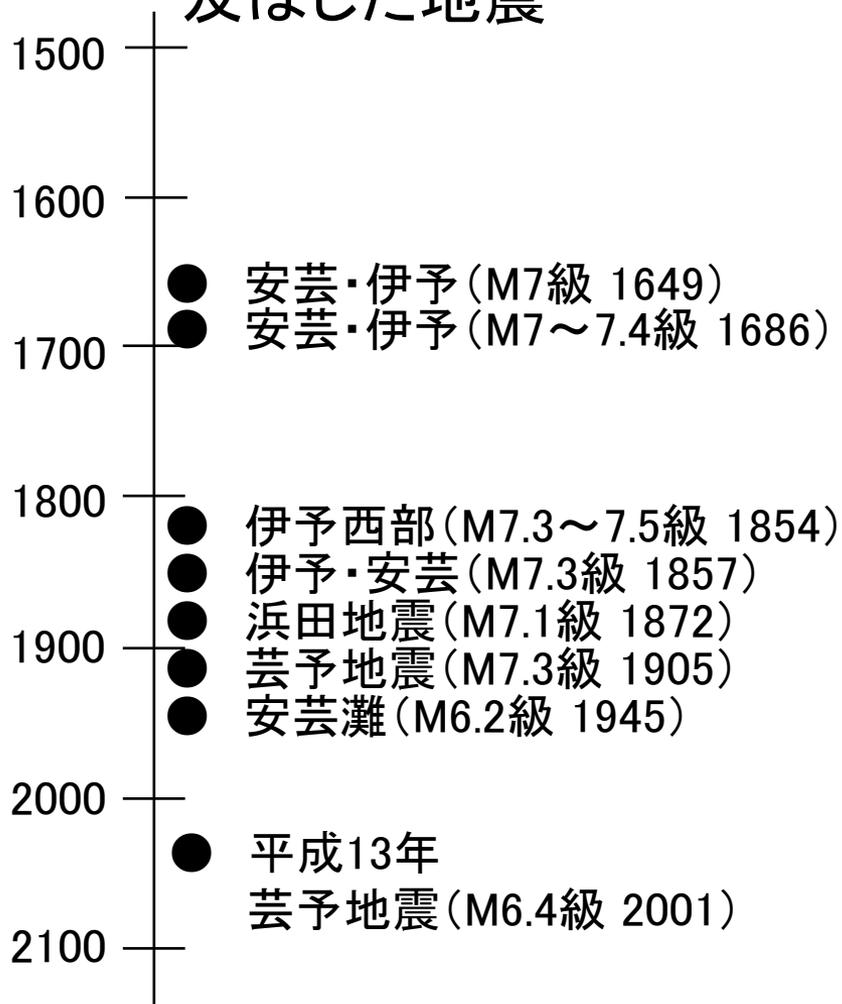
- 岩国-五日市断層帯
 - 己斐断層区間(己斐断層)
 - 五日市断層区間(五日市断層)
 - 岩国断層区間(大竹断層、岩国断層、小幡断層、熊毛断層、河内断層)

- 安芸灘断層群
 - 広島湾-岩国断層帯
 - 安芸灘断層帯



過去の記録

広島県に被害を及ぼした地震



断層型地震の特徴

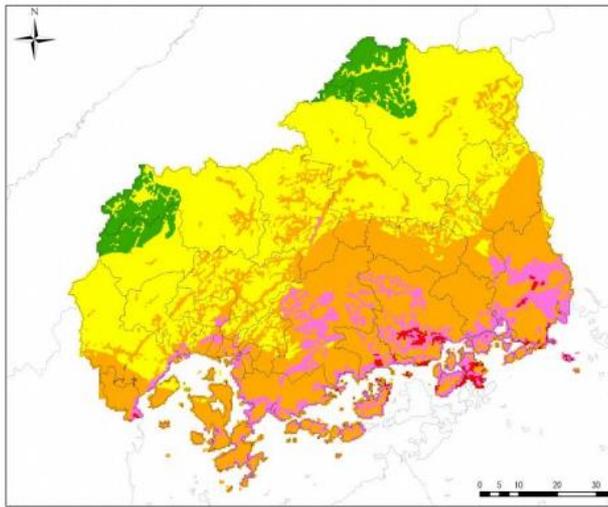
- 発生間隔が長い(数千年間隔)
発生予測は誤差大
⇒低い発生確率でも突然発生
- 未知の断層で大地震が発生
(1995 阪神淡路大震災、
2024 能登半島地震)
- 直下型の場合
M7でも震度7が発生
震源付近では緊急地震速報
が間に合わない
- 海底で発生した場合
大津波が発生することも
(2024能登半島地震)
⇒津波到達が数分以内

4 大竹市に予想される地震動

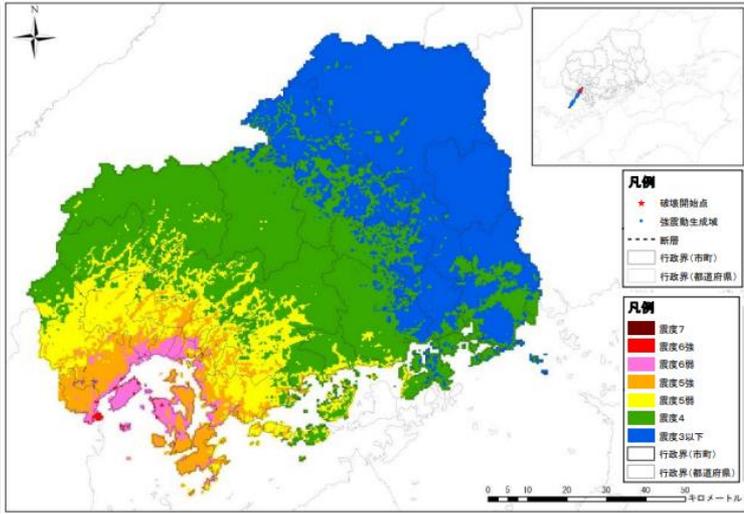
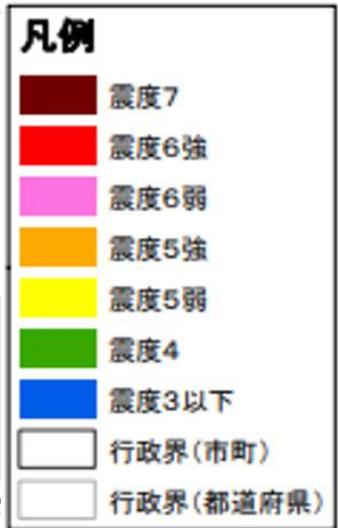


南海トラフ

安芸灘断層群

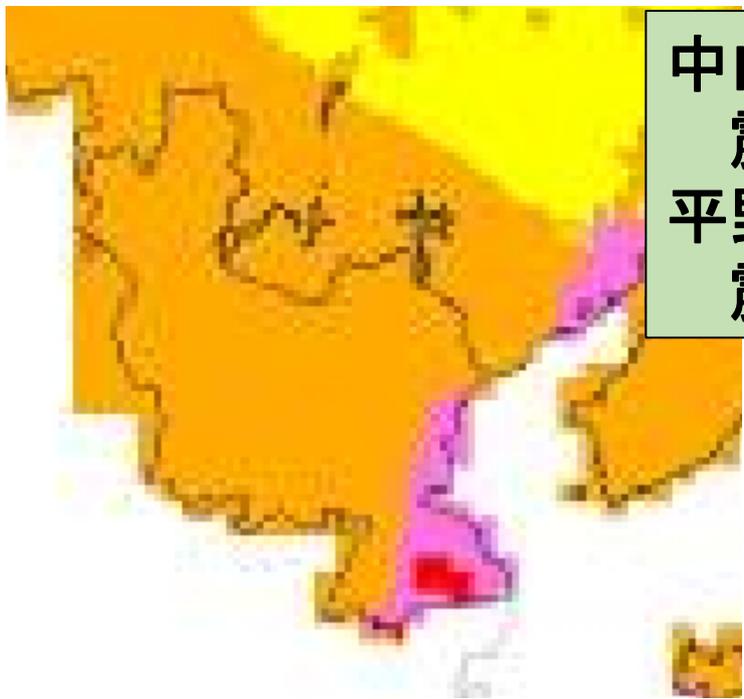


南海トラフ巨大地震（重ね合わせ）



安芸灘断層群（広島湾－岩国沖断層帯）の地震（北から破壊）

中山間部
震度5強
平野部
震度6強・6弱



6 地震動と対策

建物の耐震基準

耐震基準	耐震性	補足
旧耐震基準 1980年以前	<ul style="list-style-type: none"> ・震度5:倒壊しない ・震度5以上:規定なし 	
新耐震基準 1981.6.1改正	<ul style="list-style-type: none"> ・震度5:損傷が少ない ・震度7:崩壊・倒壊しない <p style="color: red;">余震など2度目の震度7には耐えられない場合がある</p>	
2000年基準 2000.6.1改正	等級1 数百年に一度の地震で倒壊、崩壊等しない 数十年に一度の地震で損傷しない	1995阪神淡路大震災の教訓を受け新耐震基準を強化したもの <ul style="list-style-type: none"> ・不同沈下防止(地盤に合わせた基礎の作成) ・接合部の固定 ・耐力壁の均等化
	等級2 等級1の1.25倍の地震に耐える	
	等級3 等級1の1.5倍の地震に耐える	

2026年熊本地震における益城町(震度7が2回発生)における状況

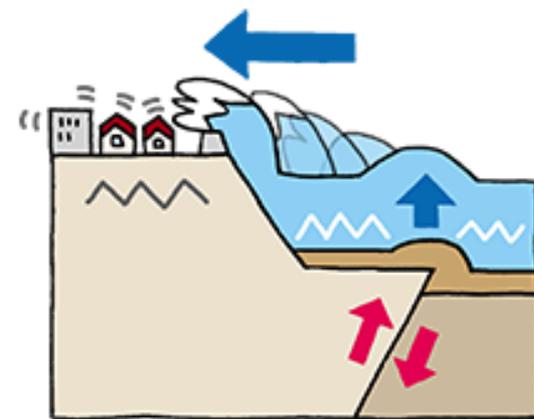
	倒壊した建物の割合
旧耐震基準	28.2%
新耐震基準	8.7%
2000年基準	2.2%

国交省住宅局調査結果抜粋

「熊本地震における建築物被害の原因分析を行う委員会」報告書のポイント

<https://www.mlit.go.jp/common/001155087.pdf>

8 大竹市に予想される津波





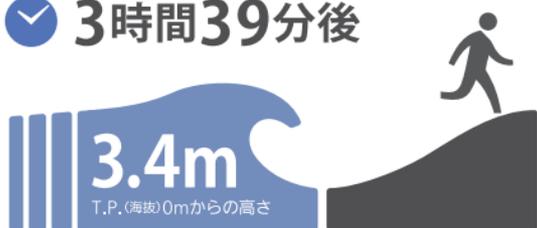
26分後



第1波到達
26分後

沿岸部に津波の影響が生じる。
※初期潮位から±20cmの水位変化が生じる。

3時間39分後



最大波
3.4m

津波の最大波到達 (最高津波水位)

※第一波が最大波になるとは限りません。

安芸灘断層群
五日市-岩国断層帯



震源が湾内の場合
津波可能性あり
(到達5分以内)

大竹市への
影響不明

津波

呼称	波高	(気象庁) 防災気象情報	(大竹市)	
			避難情報	対象地区
大津波	3m以上	大津波警報	避難指示	陸上部の 浸水想定区域 堤防より海側の区域 岸壁周辺・港内の船舶
津波	1m以上	津波警報		
	20cm以上	津波注意報		

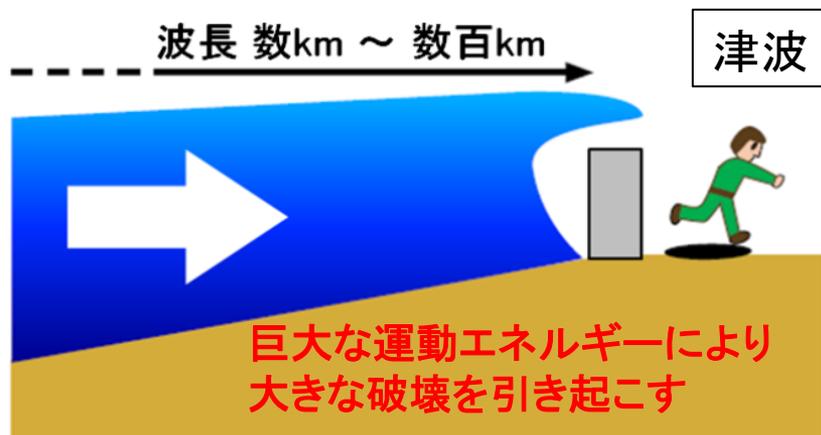
強い地震が発生すると

- ・ 夜間や休日の場合、職員の参集に時間を要する可能性
- ・ 防災無線・防災メール関連機材に故障が発生する可能性があります。

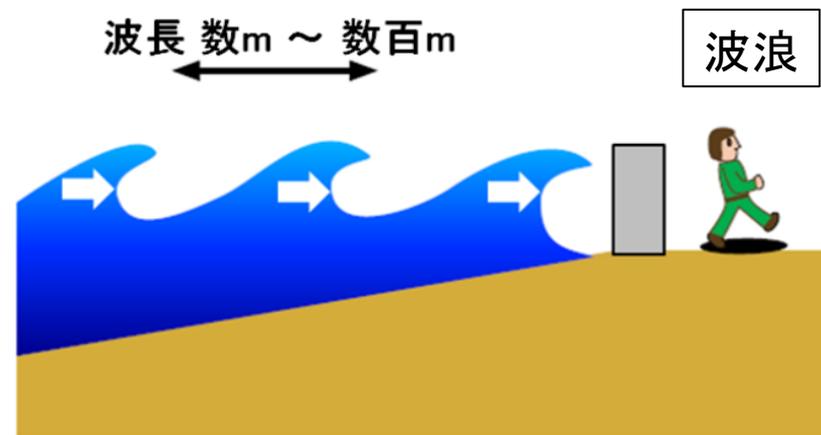
⇒このため

- ① 避難指示が迅速に発令できない場合があります。
- ② 指定緊急避難場所に行っても、閉まっている可能性があります。
- ③ 広島県に津波警報・大津波警報が発表された場合は、市の避難指示を待たずに、自発的に高台などへ避難しましょう。
- ④ 津波注意報の場合は、速やかに海と河口付近の川から離れましょう。

津波の破壊力



海底から海面まで海水全体が押し寄せる



津波高 (m)	1	2	3	4	8	16
木造家屋	部分的破壊	全面破壊				
石造家屋	持ちこたえる				全面破壊	
鉄筋コンクリート	持ちこたえる					全面破壊

2011東日本大震災

木造家屋 1.5mの津波: 多数流出

車 50cmの津波: 渋滞中の車が多数流出

人 30cmの津波: 転倒・流された



呼びかけ訓練 (地震想定)

5分～30分後

約2時間後

1週間

2週間

調査中

巨大地震警戒

呼びかけを行う

地震の備えの再確認
+地震発生後、すぐに避難
するための準備(※1)

津波からの避難が間に合わない住民は事前避難(※2)

警戒措置解除⇒注意措置へ

地震の備えの再確認
+地震発生後、すぐに避難
するための準備(※1)

呼びかけ終了

通常的生活

ただし、大規模地震の可能性
がなくなったわけではないこと
に留意

巨大地震注意

呼びかけを行う

地震の備えの再確認
+地震発生後、すぐに避難
するための準備(※1)

呼びかけ終了

通常的生活

ただし、大規模地震の可能性
がなくなったわけではないこと
に留意

調査終了

通常的生活

ただし、大規模地震の可能性
がなくなったわけではないこと
に留意

呼びかけ訓練
の対象範囲

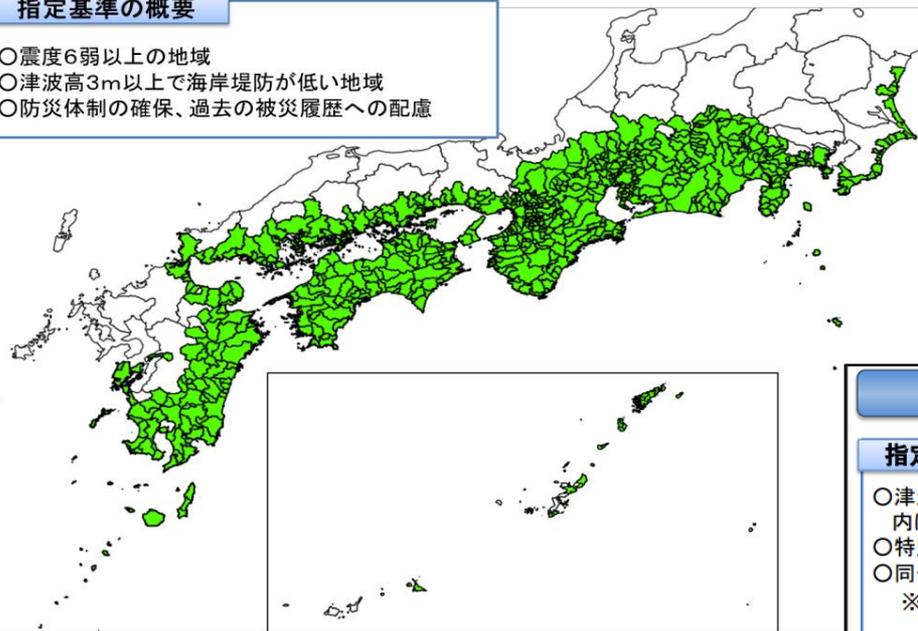


対象エリア

※1 呼びかけ対象エリア (南海トラフ地震防災対策推進地域)

指定基準の概要

- 震度6弱以上の地域
- 津波高3m以上で海岸堤防が低い地域
- 防災体制の確保、過去の被災履歴への配慮



※2 事前避難対象エリア (南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域)

南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域の指定

指定基準の概要

- 津波により30cm以上の浸水が地震発生から30分以内に生じる地域
 - 特別強化地域の候補市町村に挟まれた沿岸市町村
 - 同一府県内の津波避難対策の一体性の確保
- ※浸水深、浸水面積等の地域の実情を踏まえ、津波避難の困難性を考慮



呼びかけ訓練の基本的な流れ

政府
気象庁

南海トラフ地震臨時情報
(巨大地震警戒(又は注意))発表

受信

スマートフォン(政府発信)
市防災メール・市LINE(市役所発信)
テレビ(政府発信)

呼びかけ訓練の範囲

呼びかける内容の作成

住民に対する呼びかける内容の伝達

自主防災組織

住民

呼びかけの受取・備えの実施

呼びかける内容の例

自宅で死なない

- 自宅(室内)耐震の見直し・措置
- 緊急地震速報への対応
 - 携帯・スマホの設定再確認(受信設定)
 - 受信時の行動再確認

安全なところに逃げる

- 津波避難行動の再確認

避難生活の準備

- 備蓄品の再確認・整理
 - 飲料水・食料の購入はこの時点でやや手遅れ
 - 平時からローリングストックで備蓄を工夫

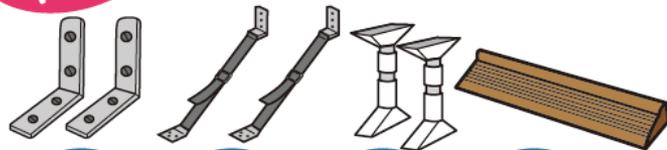
自宅で死なない

自宅(室内)耐震の見直し・措置

地震はいつ起るかわかりません

誰でも
簡単!

家具類の転倒等防止対策!



大 ← **器具の効果** → 小
 L字型金具 ベルト式固定具 ボール式固定具 転倒防止ストッパー など

POINT!

- 壁などに直接固定する方法が効果的
- 上下が分割している家具は金具で連結
- 2種類以上の器具を組み合わせるなど

転倒等防止対策実施例



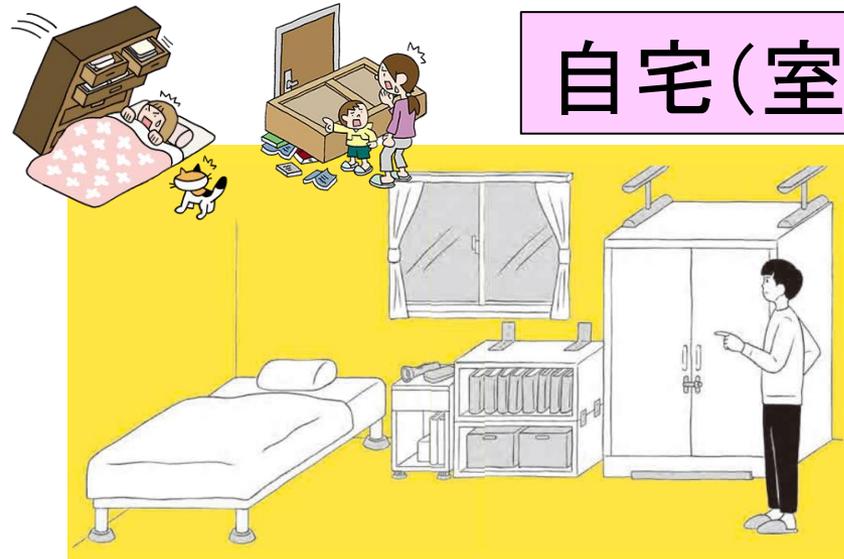
家の中の
危険箇所
チェック!

- 倒れた時に危険な家具類はないか
- 避難の妨げになる家具類はないか
- 動いたり、飛び出したりするものはないか

POINT!

「家具は必ず倒れるもの」と考えて日頃より転倒防止等の対策を行い、災害時に備えておきましょう!

自宅(室内)耐震の見直し・措置



ベッド	額縁や壁掛 時計などはベッド近くの壁や天井に取り付けない。 タンスなど重量物が倒れても負傷しない方向に設置
キャスター付家具	キャスターのロック 着脱式ベルトで壁につなげる
タンス類	転倒しても避難経路(ドア)をふさがない置き方 L型金具や突っ張り棒で壁や天井に固定

ベッド周辺に常備

- ・ 懐中電灯(暗闇で安全に行動できる)
- ・ 靴やスリッパ
(避難時にガラスの破片等で負傷しない)

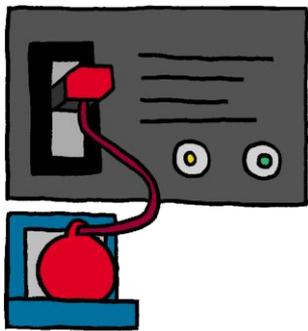
出展: 東京防災ポータル

つり下式照明	チェーンで揺れ防止対策
テレビ	に着脱式移動防止ベルトなどで固定。台はL型 金具で壁に固定し、脚に粘着マットなどの滑り止め
電子レンジ	粘着マットやストラップ式の器具で台に固定し、台もL型金具で壁に固定
テーブル・イス	脚に粘着マットなどの滑り止め
食器棚	転倒しても避難経路をふさがない置き方をし、壁に固定、ガラスには飛散防止フィルム
冷蔵庫	避難の障害にならない場所に設置し、ベルト式器具などで壁と結ぶ。上に落下しやすい物をのせない

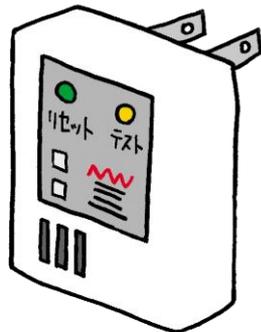
自宅(室内)耐震の見直し・措置

感震ブレーカー(震度5強以上で作動)

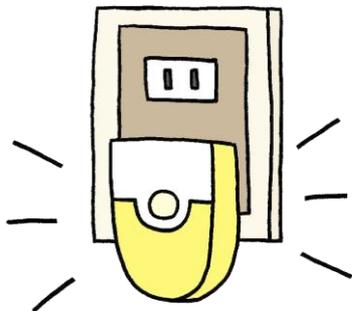
① 簡易型



② コンセント型



③ 自動点灯装置
(停電と同時に作動)



① 簡易型

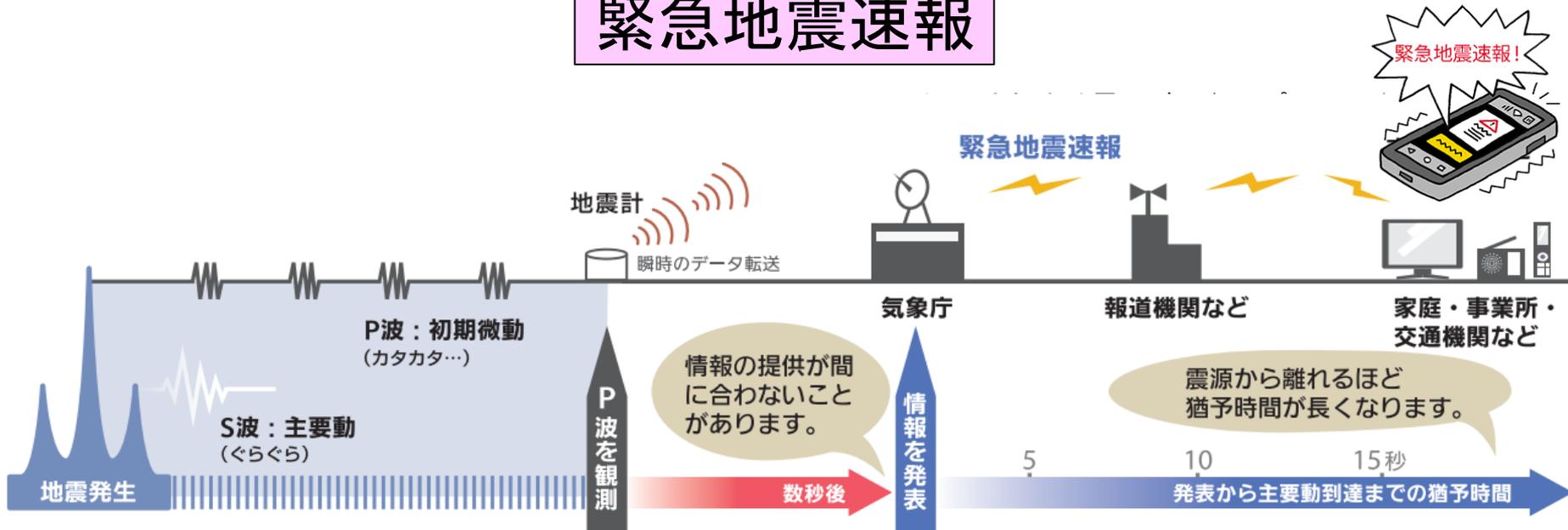
→ 即 電源遮断 → 停電

逃げるために③が必要

② コンセント型

→ 数分後アナウンス付きで
電源遮断

緊急地震速報



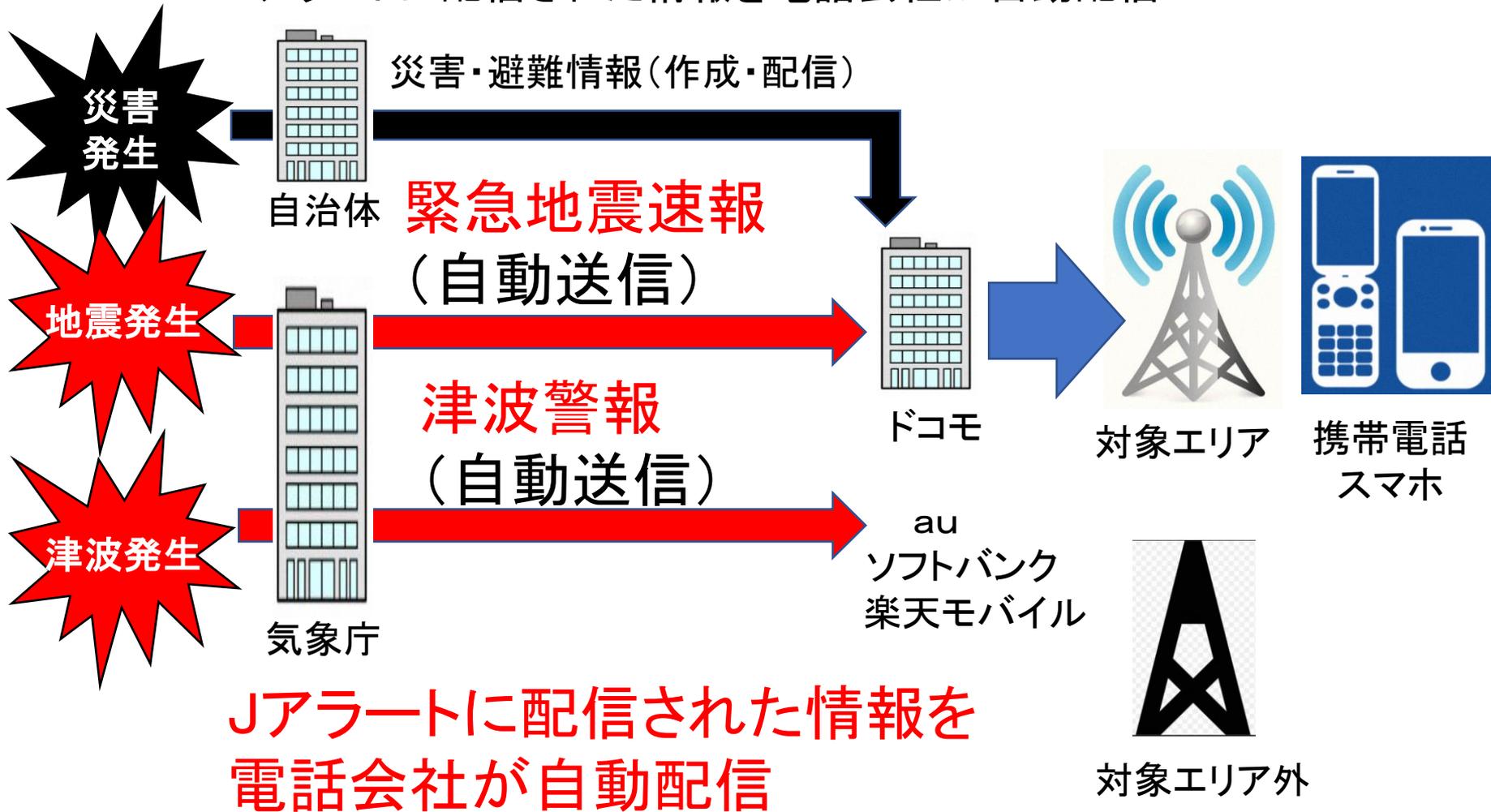
緊急地震速報とは

震源近くの観測点で地震波(P波)を検知して震源の場所や地震の規模を速やかに推定し、各地の揺れの強さや到着時刻を予測して、強い揺れ(主要動、S波)が到達することをその到達前に伝達するものです。

区分	発表条件
発表基準	震度5弱以上を予想した場合 又は 長周期振動階級3以上を予想した場合
伝達地域	震度4以上を予想した地域 又は 長周期振動階級3以上を予想した地域

エリアメール	ドコモ
緊急速報メール	au、ソフトバンク、楽天モバイル

Lアラートに配信された情報を電話会社が自動配信



緊急地震速報 スマホの設定

iPhoneの設定 (ios6以降は初期設定で「オン」になっている)



Androidの設定 (auの場合)



スマホの設定で
緊急速報・エリアメールが
「オン」になっていないと
緊急地震速報や津波警報は
受信できません。

緊急地震速報を受信した際の望ましい行動

時 期	行 動	旧耐震基準 の家屋	新耐震基準 の家屋
揺れる前	屋外に脱出	○ ※	
	落下物のない 場所に移動		○
	ドアを開ける		○
	机などの 下にもぐる		○
揺れて いる最中	クッション等 で頭を防護	○	○

※ 旧耐震基準は震度6弱以上で倒壊の恐れがある。
 南海トラフ最大震度6強～弱 → 揺れる前に、安全な場所へ退避
 緊急地震速報は、震度4以上の予測地域で受信

この警報音は何？



「緊急地震速報」

個人の携帯電話・スマートフォンが
気象庁の発表した緊急地震速報を
受信した場合

災害・避難情報、津波警報、特別警報を
受信したときの警報音
(サンプル)

「避難情報」

個人の携帯電話・スマートフォンが
市町の発令した避難情報
(警戒レベル〇)を受信した場合

大津波警報
(東日本大震災クラス)

「大津波警報」

気象庁が発表した場合
各市町の防災行政無線スピーカーから
自動的に吹鳴

地震波が到達するまでの時間

安芸灘断層群
五日市-岩国断層帯



時間	P波	S波	
距離	8 km/s	4 km/s	
8 km	1 秒	2 秒	断層
40 km	5 秒	10 秒	
80 km	10 秒	20 秒	南海トラフ
160 km	20 秒	40 秒	
240 km	30 秒	60 秒	
320 km	40 秒	80 秒	
400 km	50 秒	100 秒	

安全なところに逃げる

ハザードマップ 津波

つなみ しんすい そうてい くいき つなみ

津波浸水想定区域 (津波が来るところ)

20m ~
10m ~ 20m
5m ~ 10m
3m ~ 5m
0.5m ~ 3m
0.5m ~ 1m
~ 0.5m
~ 0.3m



つなみ
津波は川をさかのぼる
に
⇒ 川からも逃げる



げんそく たちのきひなん
原則、すべて立退避難
きけん
木造の家は危険大

つなみ よそう ごさだい
津波予想は誤差大 ⇒ 色のついていない場所も危険
たちのきひなん
高い場所への移動が必要(立退避難)



出典: 国交省国土地理院
(重ねるハザードマップ)

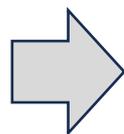
スマホで確認⇒





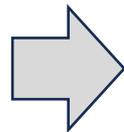
津波避難の三原則

1 想定にとらわれるな



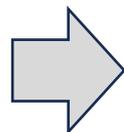
ハザードマップ通りの
津波はない
想定より早く来るかも

2 最善をつくせ



より高く、より遠くへ逃げろ
建物より高台を目指せ

3 率先避難者たれ

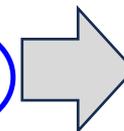


あなたの避難行動が
周りを感化する
基本は津波てんでんこ

出展: 群馬大学大学院 片田敏孝教授(釜石の出来事)

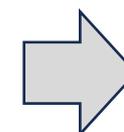
東日本大震災の教訓

1 原則・徒歩避難(車危険)



仙台市・閑上^(ゆりあげ)地区
(車渋滞中に津波襲来)

2 津波は川を遡上する



石巻市・大川小学校
(河口上流5kmに津波襲来)

(川からも離れよ)

收集整理: 大竹市危機管理課

2011東日本大震災
渋滞中に津波襲来

日本テレビ NEWS ZERO (YOUTUBE公開動画)
<https://www.youtube.com/watch?v=oBzwEIEeyr4>



3.11 あの日から3年
津波にのまれた車載カメラ
車ごと流され…一部始終

ZERO





朝日放送 ANNnewsCH (YOUTUBE公開動画)

<https://www.youtube.com/watch?v=wRhEQ5osBUc&t=535s>

再生位置0分21秒～6分2秒



緊迫瞬間

がれきの中から新映像 建物倒壊 避難の現実

ANN
NEWS
石川・珠洲市
きのう

がれき

⑥ 在宅避難に必要なもの

ライフライン復旧までの日数（web情報からの抽出）

復旧日数：9割以上（概ね）復旧までの日数

作成：大竹市危機管理課

区分	災害		復旧日数			
	年	名称	電気	水道	LPガス	都市ガス
地震 震度7	1995	阪神淡路 大震災	1週間	3ヶ月		3ヶ月
	2011	東日本 大震災	1週間	4ヶ月	1ヶ月	2ヶ月
	2016	熊本地震	1週間	1週間	自動遮断 のみ発生 供給途絶なし	2週間
	2018	北海道 胆振地震	2日	3日	被害なし	
風水害	2018	平成30年 7月豪雨 (西日本豪雨)	1週間	3週間	5日	

大竹市 ガス:LP⇒復旧早い(マイコンメータの復旧必要)
水道:古い配管の破損⇒大規模断水の可能性

備蓄目標日数

従来 最低3日 できれば1週間
 今後 最低1週間 目標2週間が望ましい

行政が準備できる備蓄品には限界があります。

自分の命を自分で守るために、備蓄品は、自分で用意しましょう。

作成:大竹市危機管理課

目標日数	従来の考え方	大規模災害	広範囲に影響する大規模災害
災害	局地的な災害	阪神淡路大震災 東日本大震災・熊本地震 平成30年7月豪雨 令和6年能登半島地震 五日市岩国断層帯地震 安芸灘断層群地震 南海トラフ巨大地震 (半割れの場合)	南海トラフ巨大地震 (東西が同時期に発災した場合)
発災0日	▶		
3日	▶ 備蓄3日分		
1週間	▶ 応援物資供給体制	備蓄 1週間分	
2週間	▶	<div style="border: 1px solid blue; padding: 2px;"> 実際は3日以上 </div> 応援物資供給体制	備蓄 2週間分
			<div style="border: 1px solid red; padding: 2px;"> 物流が飽和し長時間を要するとの指摘あり </div> 応援物資供給体制



マイコンメーターの復帰の手順

マイコンメーターの表示部に「ガス止」と文字が表れ、ガスが止まったときは、復帰の手順に従って操作してください。ガス漏れなどの異常がない場合は、復帰してガスが使えるようになります。

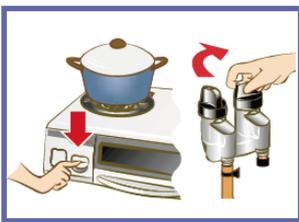
表示部分に「ガス止」の文字が表れたとき！

※通常は文字表示はありません。



LPガス マイコンメーター の復旧方法

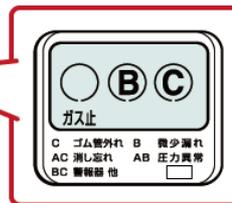
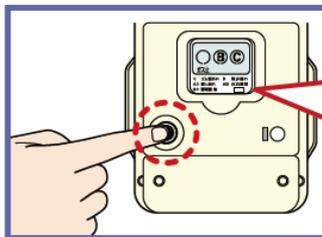
1



●器具栓と未使用のガス栓を全て閉めてください。

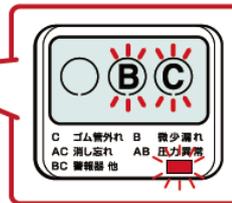
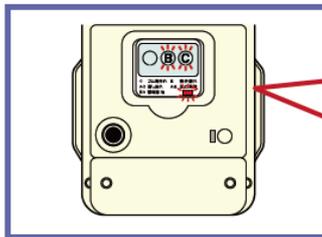
震度5弱以上を感知すると、安全のため自動的にマイコンメーターがガス供給を遮断します。マイコンメーターを復旧しないとガスの使用が再開できません。

2



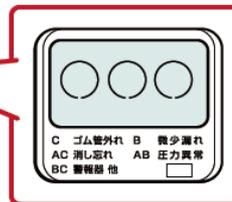
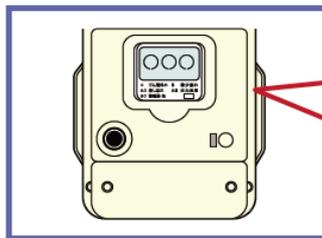
- 左側のボタンを押してください。
- 「ガス止」の文字が消えます。

3



- 液晶の文字とランプが点滅します。
 - 1分間お待ち下さい。
- ※ランプは、復帰ボタン部にあるものがあります。

4



- 液晶の文字とランプが消えます。
- 復帰完了です。
- ガスは使えます。



日本ガスメーター
工業協会 HP

復帰しない場合は、復帰を繰り返さずLPガス販売店の点検を受けてください。

備蓄の優先順位



トイレ

1日 5回以上

水

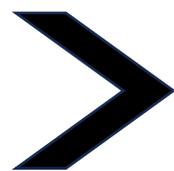
飲料水 1日 3L

+生活水1日 2~6L(個人差大)

食料

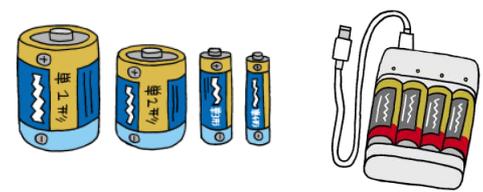
1日 3食

無いと困るもの



あった方がよいもの

電力
その他
人により
必要な物



必要な水の量



飲料水



生活用水



大人

1日



3L

3日



9L



子供



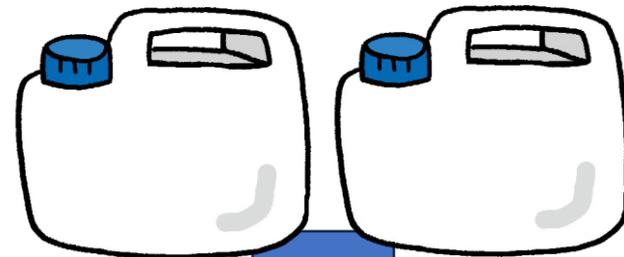
1.5L



4.5L

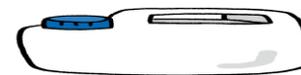
ふつうの生活

1人1日 20~80L



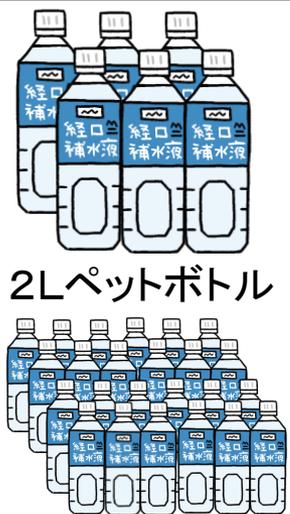
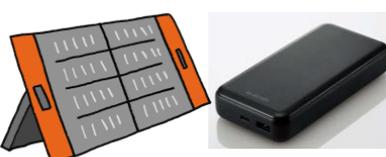
災害時の生活

1人1日 2~6L



工夫で水を節約

目標日数に応じた備蓄量(1人分の場合)

品目	トイレ	水(飲料水)	食料	電力
基準	1日 5回	1日 3L	1日 3食	使用する 機器による
3日	15回分	9L	9食	
1週間	35回分	21L	21食	
2週間	70回分	42L	42食	
	 凝固剤付き トイレ	 2Lペットボトル 500mlペットボトル		 乾電池  ソーラー パネル モバイル バッテリー ...など
			 工夫で 食糧費を 抑制 ↓ バーナー/コンロ ぜひ準備を！	

非常時のトイレについて

					
方法	生活用水 利用による	凝固剤利用による ※ BOS防臭袋付きは最適		仮設 トイレ	マンホール トイレ
	普通の トイレ	普通の トイレ	特設 トイレ		
長所	既存の トイレが 使用可能	既存の トイレが 使用可能	設置 が容易	設置 が容易	既存の 下水道が 利用可能
短所	大量の水 が必要 (1回4~5L)	やや高価 1人10日(50回) 分で約5000円	椅子 の購入 が必要	大量調達 に時間 がかかる	改修工事が必要 (大竹市未対応)
	(地震等) 下水道破損時 使用不可	発災後入手困難 (事前購入必須)		異臭大 (汲取式)	(地震等) 下水道破損時 使用不可
個人への 適応度	×	◎	○	△	×

水について

飲料水(飲める)



個人備蓄
ペット水



個人備蓄
水道水

新しいもの

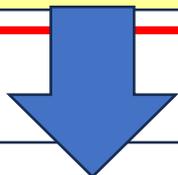
一般に言われる

最低3日分 9リッター(3L/日)

理想1週間 21リッター

~ 2週間 42リッター

とはこの部分です。



古くなったら
生活用水に活用



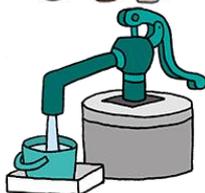
個人備蓄
ペット水



個人備蓄
水道水



給水所の
配給水
(飲める)



井戸水の活用

飲料以外に

生活には多くの水が必要です。

工夫すればより多くの水

が確保できます。



風呂に
ためた水

水洗トイレ
4~5L/回
必要



シャワー
の代用



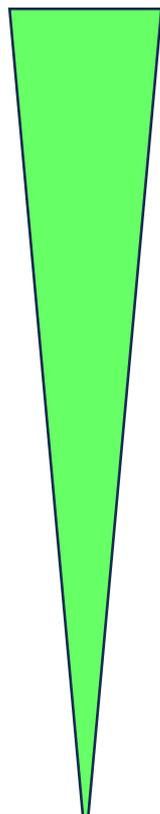
湯煎調理

で古い水を活用

生活用水(飲めない)

避難に必要な準備

死ぬ
危険性



	学校・出かけ先	自分の家	避難先
命を守る	①死なない 	②死なない 	
安全な場所へ行く	③家に帰るルート 	④出口までのルート 	とちゅう ⑤途中のルート
避難生活をする		ざいたくひなん ⑥在宅避難 	たちのきひなん ⑦立退避難

出典：防災セットの基本！防災リュック・非常持出袋の種類と考え方
[そなえるTV・高荷智也]

<https://www.youtube.com/watch?v=gzali0yAaY4>

売られている

ひなん

「避難リュック」の中身

